

浸水後の「壁・床」内部の対処について（ご注意！！）

（一社）佐賀県建築士会 危機管理対策部会

床上浸水後、内装の表面が乾燥しても、内部に水分が残っていると構造体（柱・土台など）の劣化を進行させ、内部にカビを発生させて健康被害を引き起こす可能性がありますので、「壁・床」内部の乾燥については早めのチェックと、対処が必要です！

「壁」について

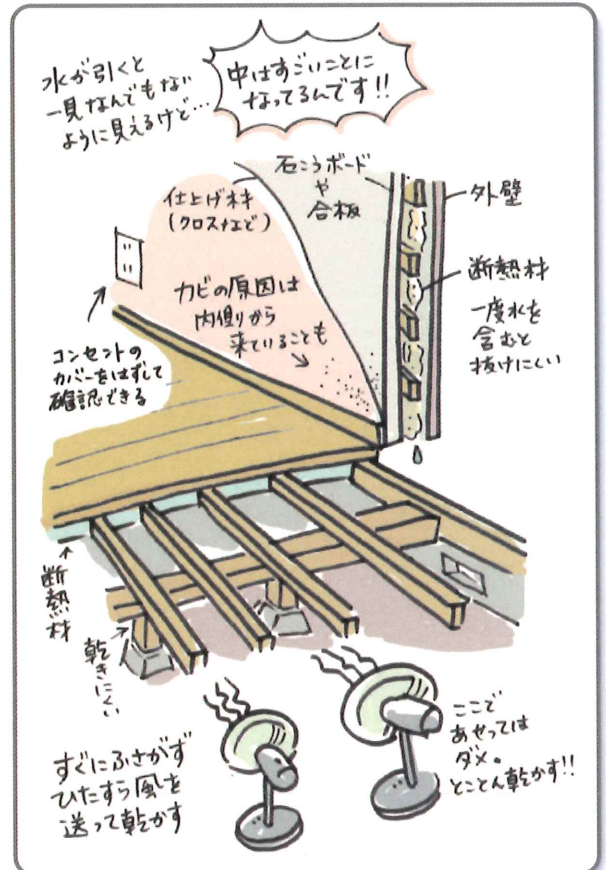
まずは、壁内部に水を含みやすい材料が使われていないかを確認します。コンセントボックスを外したり、内装材の一部をカットして確認する方法があります。

● 壁内部に「グラスウール断熱材」がある場合（外部に面した壁に使われていることが多い）

グラスウール断熱材は水に濡れると乾燥しにくく、再利用も難しい材料です。グラスウール断熱材が入っている場合は、濡れている高さまでの内装材（石膏ボードや合板など）を取り外し、濡れたグラスウール断熱材を取り除いて、新たに施工し直す必要があります。

● 壁内部に「土壁」が使われている場合（和風で築年数のある建物に多い）

土壁は水に濡れると徐々に溶け出し、壁の強度が低下します。（表面が木板や石膏ボードで覆われている場合でも、内部の土壁が崩れている可能性があります）緩んだ土壁は、その部分を一旦撤去し、再度施工し直す必要があります。（土材は再利用可能です）



出典：震災がつなぐ全国ネットワーク「水害にあったときに」

「床」について

まずは、水を含んだ畳やカーペットを撤去し、下地が木板張りの場合は板を剥がして床下が見えるようにします。基礎に溜まった水を排出したあと、合板張りの場合は対角線上の2箇所を空けて風を送り乾燥させます。床下空間（基礎内部）を完全に乾燥させるには約1ヶ月程度の日数が必要となります。

【作業の手順】

- ① 材質のチェック（判断がつかない場合は建築士や施工業者の助言を得ることをお勧めします）
- ② 罹災証明・保険の確認（復旧工事の支援制度や費用負担について確認してください）
- ③ 濡れている部分の撤去（復旧費用を最小限に抑えるため、修理部分のみの撤去としてください）
- ④ 復旧工事（必ず見積もりを取り、施工範囲と金額を確認してから発注してください）

⚠ 通気も大切ですが、空き巣被害や、業者等を装った詐欺にも十分ご注意ください！

【建築士による無料相談窓口】

佐賀県安全住まいづくりサポートセンター TEL 0952-26-2198

（平日9：00～17：00）